

第3回内丸地区再整備検討懇話会 議事要旨			
日時	令和7年8月19日（火） 10:00～12:00	会場	盛岡市保健所 7階 大ホール
出席者	懇話会委員	財務省東北財務局盛岡財務事務所長 岩手県ふるさと振興部長 学校法人岩手医科大学長 株式会社岩手銀行取締役常務執行役員 株式会社岩手日報社常務取締役統括・労務・関連会社・150周年記念事業担当 株式会社北日本銀行総務部長 株式会社テレビ岩手専務取締役 経営企画・報道制作・関連会社担当 企画経営局長 兼 技術局長 株式会社東北銀行執行役員 総務部長 東北電力ネットワーク株式会社盛岡電力センター所長 盛岡市商店街連合会副会長 盛岡市商工会議所専務理事 国立大学法人岩手大学理工学部教授 盛岡市副市長	
	盛岡市	都市整備部長 市長公室長 総務部長 商工労働部長 建設部長 都市整備部次長 管財課長 管財課長補佐兼新市庁舎整備室長 経済企画課長 交通政策課長 市街地整備課長 市街地整備課主幹兼まちなか未来創生室長 都市計画課長、同課課長補佐、同課土地利用計画係長、同係員	
	UR都市機構	東北まちづくり支援事務所まちづくり支援課長 東北まちづくり支援事務所調整役	

(内容)

●座長及び副座長の選任

座長を南正昭委員、副座長を工藤直樹委員にすることで了承された。

●協議事項等

(1)の項目について、資料1及び資料2を都市整備部長が説明。

●質疑応答・意見・コメント

岩手医科大学 : これまでの内丸地区再整備検討懇話会では、中間とりまとめは2050年が目標と書いてある。なぜかという2040年に人口が減るので、2050年だろうということ。これまでの内丸地区再整備検討懇話会には約1000万円税金を投入してコンサルタント会社に依頼して2050年までの計画を作ったはず。それを無視していきなりなぜ今回50年後になったのかが理解できない。

: 50ページの15年程に取り組む事業として新市庁舎と県庁舎の整備と書いてあるが、そこまでやるのはこれしかないを読み取れる。

: 50年後はこの場の皆はこの世にいない。若い人、未来の人の計画を未来にはいない私達が決めるのは筋が通らない。

: 11ページで人口が増えるように書いているが、県の資料、厚労省の資料では人口は減っていく。盛岡市の人口は2030年がピークのはず。地区ごとに2050年までの人口推計を出していかないと、無駄な金をたくさん使うことになる。50年後の人口推計、人口構成を出してほしい。未来予想、人口推計に基づかないと、まるでこの計画は高度成長期の計画のように思う。そのような計画は発表しないでほしい。また、外から人が来ると言っているが、観光客の増減のデータを出すべきではないか。増えている根拠があるのであれば話は違う。根拠のないものは認めない。このことについて回答をいただきたい。

都市整備部長 : 50年後を計画の目途とした件については、計画作成初期においては、20～30年後を設定して取り組んだが、今の官公庁施設の一団地は建設から50～60年経った今、再整備の計画をしている。都市を考えていく中では、50年というのが一つのサイクルではなかろうかと考えた。根拠としては現に内丸官公庁施設は50～60年経ってきており、これから施設の更新に向かってこのまちを創造していくには、同じくらいのスパン、期間が必要ではないかと考えた。ただし、それは基本方針編についてであり、整備方針編についてはある程度、短いスパンで考えていく必要があると思っている。只今委員からご指摘があったように社会情勢はこれから変わっていくと思う。それに応じてフレームも、人口であったり経済であったり、そういうものも変わってくると思う。フレームは変わるが、そこで、活動の仕方、都市での過ごし方など、こういったものも価値観が変わってくるので、そのような変わったこともしっかり踏まえながらフィードバックをしていこうとするもの。目指すべきものをしっかり見つめながら、現実も踏まえてローリングしながら進めていこうという考え方を、この内丸プランは取っている。

: 人口が減るだろうという指摘、これは十分に承知している。市全体の計画である総合計画でもそれを大前提とした施策を講じている。都市計画においても同様。こ

れから人口が減る中で公共投資をどうしていくかというのは大きなテーマである。将来無駄になるようなものをつくるべきではない。そのことから都市計画においては立地適正化計画を作っている。高度成長期に都市を大きくしたが、都市の密度を保ってコンパクトにし、効率の良い都市にしていくという趣旨で、令和2年に作っている。この計画では今の市街地を約40%程に一定の密度の市街地とする方向性としている。この計画では行政サービス機能等や、市民の暮らし、産業の活動などを支えるためには、中心部や地域の拠点をしっかり作り、その拠点を結んでいくということを理想として掲げているので、それにはこの中心部の力をしっかり維持していくということが非常に大事なことだと思っている。都市全体の人口は減っていく中でも、内丸地区のもつ力を維持していくことが都市を維持していくために非常に大事だと考えているので、この計画に取り組んでいくし、整備も進めていきたい。

: 県庁舎と市庁舎しか整備しないようなイメージというご指摘について、これはそのように感じられるのであれば私共の説明不足である。県庁舎と市庁舎以外の街区等についても、取り組みを進めていく。

岩手医科大学 : 回答は要らないが、質問と回答がずれていた。質問に対し1対1で回答してほしい。
: コンサルタントに税金で委託して作っている計画で、目標とした2050年後を、それを踏襲したなどの説明もなく、それだと短いということで、黙って50年後に変えるのは、納税者に説明できないのではないか。

テレビ岩手 : 親水エリアは、耳ざわりがよいが、近年洪水の問題がある。防災の観点から例えば護岸の嵩上げなどの検討が必要と考えられ、親水という言葉で片づけてよいのかということ懸念している。嵩上げでなくとも、公官庁がかなりあるエリアであり、少なくとも何かしらの対策した上でのエリアであればよいが、ここには一切書かれておらず、検討が必要と思う。

都市整備部長 : 内丸地区の空間として「どうありたいか」に軸足を置いた計画とした、というのが正直なところ。ただし防災は都市をつくっていく上で大前提としなければならないものである、というのはご指摘のとおり。中津川は国管轄であり、整備等については国との協議が必要となり、おそらく今の護岸にあまり大きな手を加えることは、非常に多くの議論、話し合い、調整が必要になってくると思われる。洪水を防ぐためには、ハード対策だけでは防ぎきれないというのはここ何年かの教訓としてある。災害をハードで防ぐと同時に、災害が起こったときに被害の最小化を図っていくという視点も必要だと思う。官公庁が集積しているところについては多様な行政機能が集まっており、災害の対応力をいかに発揮していくかということが非常に大事なテーマとなると考えている。そこはソフト対策を含め考えていく。ご指摘のあったところについて、今はこの中では、護岸を嵩上げするということは念頭に入れてはいないが、被害の最小化を図っていくこと、基盤整備とその上に立つ建物とを考えると十分に配慮して考えていく必要があると考えている。

盛岡財務事務所 : 基本方針策定後に整備方針を作るという説明があった。整備方針を定める部分と

	しては、市庁舎などの建設に係る部分を先に策定するという事か。
都市整備部長	: 地区全体のあるべき姿を今回定められれば、その上に立って、施設の更新時期が定まったり、あるいは施設整備計画が作成された場所について、ヒアリングをしながらになるが、優先的に取り組むことになると考えている。基本的に街区単位になると今のところは考えているが、現段階で具体的な場所は定まってない。ただ、市庁舎については既に基本構想もできており、ある程度スケジュールを立てているということ、また県庁については、いま検討されているということがあるので、そういうところが検討の候補に入ってくると考えている。いずれにせよ、各施設の方々と、その整備や建物の更新の考え方や、スケジュール感などをしっかり聞きながら、整備を一体的にできるところについて、取り組んでいくという考え方。ある程度街区単位で、部分的・段階的に進めていくことを想定している。
岩手日報	: 50年というスパンの計画であり、以前の「中間とりまとめ」のスパンより長くなっているということで、池田委員の質問にも若干関係があると思うが、今年は非常に暑く、50年後はよほど劇的な温暖化対策が世界的に進まなければどんどん気温は上がっていくと思われ、その中で、この内丸地区を、人が集まる、人が歩く、回遊する地区にするといった場合に、非常に暑くて外を歩いていられないという状況になる。今の案では、緑地等をかなり増やすということなので、そういった点では良いと思うが、そうした点はどのようにお考えか。
都市整備部長	: オープンスペースと表現しているが、そこには樹木・みどりを配置するということが考えられる。緑地の配置計画までは今回は計画に落とし込んでいないが、オープンスペースが、昨今の、非常に暑い日が続くということを考えて、日陰をつくるということも整備方針編の中では当然出てくるだろうと思う。このようなオープンスペースを使って、また、各ブロック街区の建物についても、今後、こういう建て方をしたい、こういう風な空間にしたいという意見を踏まえていった先に、敷地内にもちょっとした、皆さんが利用できるスペースにおいて、日光を遮ってもらえるような仕掛けをしてもらうなど、当然考えられると思う。そういうものを、地区全体の統一したルールにしようということまで機運が高まれば、都市計画などでルール化することも考えられる。基本方針編は大きな方針なので、これから整備方針編を定めていく中で、個別の議論を行う中でそのような意見があればどんどん取り入れていきたい。
岩手医科大学	: パブリックコメントはどのように行う予定か。
都市計画課長	: 市内各所への計画素案の配置とホームページにより、計画素案の内容を閲覧できるようにし、それに対して意見を募る。郵送やメール送信などで意見を提出してもらう予定。
岩手医科大学	: 私が何を言いたいかというと、この計画を実際に享受するステークホルダーはここにいる私達ではなく、小学生・中学生・高校生・大学生である。中学生・高校生・大学生に、盛岡市内の学校にこれを配って、その方々が、自分たちが大人になった時にどうなるのか、というパブリックコメントを是非やるべきで、その意見はとても重要と思う。このような研究をしている人もいると思われ、岩手大学などに

都市整備部長	もいると思う。そういう方々の若い人の意見をぜひ取り入れていただきたい。 : おっしゃる通りと思う。我々も今色々な計画などに取り組んでいるが、お子さんなど、若い、これからの時代を担っていく方がどのように考えているかということは非常に気になっており、できるだけ意見も聞きたいと思っていた。その意味もあり、今回イラストという表現にトライしたが、できるだけそういう方々に御意見をいただけるように取り組んでいく。
岩手銀行	: 内丸地区将来ビジョンの懇話会から参加して4年近くになる。当時からの主要テーマである、新市庁舎の整備エリアが内丸に落ち着き非常に安堵している。我々民間事業者もこうしたグランドデザインを念頭に置きながら、中央通エリアのファシリティマネジメントを中長期的にしっかり進めていきたい。その上で感想めいたものであり、お願いでもあるが、難しい課題であると思うが、民間事業者の目指すべき方向性、市民や行政などが期待する役割をもう少し踏み込んで検討すると良いのではないかと。きっかけは、8/17まで川徳のキューブツーで開催していた、盛岡アゴラ特別展示会という、まちづくりの展示会である。各まちを、細かくエリア分けして、エリアごとの現状と課題、将来ビジョンを、デザイン手法を用いて分かりやすく示していて、若い人向けにも分かりやすく、非常に質の高い展示会だった。ただ、拝見して一つ残念だったことが、内丸・中央通エリアの展示において、挙げられていたポイントが2つあり、1つは、盛岡の行政の中心地、ということと、もう一つは緑地が集まっている、と。あれ、と思った。主な課題は行政以外の都市サービスに乏しく、市民が日常的に訪れるエリアになっていない、とのことで、そうなのだろうかと思った。自分たちの取り組みをひけらかすようで恐縮だが、我々岩手銀行でも内丸ビジョンを踏まえ、本店周辺エリアにかなりリソースを投入してきたつもりである。NTTさんと連携などもした。こうした活動が中心市街地活性化の取組として市民の皆様に認知されていなかったのかなと、あるいは、情報発信、関わりも含めて少し努力が足りなかったのかと、少しがっかりした。当初から、内丸地区将来ビジョンの対象地区は2つあって内丸地区行政区域と、その当時の資料からいうとそこから連担する中央通沿いのオフィスビルが立地する業務エリア及びその周辺の区域である。これを踏まえて、我々も一緒に船に乗ってやろうということでこの数年間進めてきた。内丸地区を行政と経済の中心エリアと位置付けられていたと思う。今日のご説明を聞いて、そのあたりは内丸ビジョンの時と、大きく違いはないのだと理解したが、もう少し、今後、民間との連携をしたまちづくりに拍車がかかるような方向に力点を置いていただけると、我々としても色々な計画が進めやすいと考えている。
都市整備部長	: 我々の反省点もご指摘いただいた。人口が増加し経済が発展する時代の中では公共事業がリードしまちをつくってきたと思うが、これからは公共事業でまちを引っ張っていくということは、かつてのように強くできないと考えている。そうすると、これからは、民間の方々と一緒になってまちをつくっていかなければならない、というように考えている。どうしていこうかという時に、それぞれのプレイヤーがそれぞれの考えの中てやっていくのではなく、お互いに考えていること

をしっかりと共有して、これなら一緒にできるよね、これをやるんだったら、我々はこういう風にしていこう、という風に展開していきたい、そうあってほしいと思っている。そのために指針が欲しいので、現在、中心市街地デザイン戦略の作成に取り組んでいる。これは、特徴のある地区ごとに、民間の方々はこんなことを考えているのだということを皆で共有する作業をやっている。このデザイン戦略の中に、内丸地区再整備の考え方も当然入ってきて、お互い別々の計画で、取り組み方は別々ではあるが、中身は当然一緒になっていかなければならないと思っている。この内丸プランもこれからパブコメを機会に皆さんの目に触れるので、こういう風に考えているんだということをぜひ知っていただき、であればこうなった方がいいのではないか、あるいは、自分たちはこんなことができる、そういったことを我々の方にフィードバックしてもらえれば、これからよりよいまちをつくっていけるのではないかと考えている。

岩手銀行 : 民間ではハード整備には限界があると思う。民間のソフトの取組みを引き出していただけると良いと思う。

岩手大学（座長） : ぜひ、ここに、民間の事業者の方々がいらしているが、まちづくりで力を発揮していくというような場づくりを、ここに、できていったらいいということ。むしろ、民間事業者の立場から、こうなると良い、事業上も良い、経営上も良い、そういう御意見も出てきていいと思う。できるだけ皆さんで知恵を集め、いくつかの接点が出てくれば、それを実現できるようなソフト、ハード対策ができてくるかもしれない。そういうものも是非、持ち寄れると良いと思う。

商店街連合会 : これは内丸地区のプランではあるが、それを取り巻くように大通り商店街、肴町商店街、今では商店街と言えないかもしれないが大手先、本町というあたりに我々商業者は張り付いている。ほとんどの商業者は小規模・零細の業者が集まって商店街を形成していくという形となっているが、歴史的に、盛岡は藩政時代以来400年の歴史を積み上げている商業者のまちとして、商業者は貢献してきたと思っている。人が集まり安心できるまちとして維持されていく中で、商業の賑わいが続いていけばよい、とプランを拝見する立場である。とはいえ、商業者は常に人が集まるところに移動する身軽なものである。通販の方が効率が良くなれば、そちらに移行したり、ほかのまちに移行したりもすることもある。まちに拘ることもありながら、一方で商業者は身軽に商売になるところへ移動するものでもあるので、商業者も一体となってまちづくりができるような素敵なプランにできれば良いと思っている。商業者として、400年のまちの中で商売を続けている立場で、盛岡への愛情は人一倍あると思っているので、我々も協力していきたい。

: プランではイラストなどで素敵な将来構想が語られたりしているが、私の立場からいうと、例えば中津川にサケが泳いでいるイラストがあるが、この間すでにサケが戻らなくなっている。中津川沿いのイチョウや石割桜、岩手公園のたくさん植えられている樹木や桜、そういうものが20～30年後に今と同じように元気にあるのだろうかと思ったときに、石割桜はもうすでに300年近くの寿命をそこで暮らしている老木だと思う。上の橋沿いのイチョウの木も、非常に整備がされておら

ず、木の根本をみると、ほかの樹木というか、雑草、蔦が絡まり、整備されていない状態である。気候変動によりサケも帰ってこなくなった。何が言いたいかというと、我々の、今のこの、「盛岡らしさ」というふうに言っている「盛岡らしさ」の色々なもの、岩手公園の石垣なども含め、先人が営々として築いてきたものに、非常に安易に寄りかかってしまっているのではないかな。そこに、「盛岡らしさ」などというようなことで、あぐらをかいて乗っかってしまっているのではないだろうか、と思う。確かに、そのような営々とした400年の歴史の中で作りあげられてきた都市の資源というものに盛岡らしさを感じて愛情を感じ、まちを大切にしていこう、と思うが、これを50年後というスパンで考える時には、今すぐ、私たちは、このまちの「盛岡らしさ」をどう将来に守って繋げていくかということとに、もっともっと気を配っていかないと、気が付いた時には盛岡らしさと言われる、色々な樹木や公園や自然環境などが、損なわれてしまっていないかということまで含めて、それを守っていくために、先人が築いてきた努力を怠らないようにこれを持続していかなければならないと思う。それは、自然のほか、例えばお祭りの維持・発展といったソフト面でもそうである。例えば八幡宮の秋の山車や、各地に残っている伝統さんさ踊りをどう継承していくかなど、人的な、またソフト面も含めて、これを守っていかねばならないという観点から行くと、やはりそれぞれ、後継者問題など危機を持っているところもある。そういうところを大切にしていかなければ、このプランというのは根底から覆されてしまうことがあるので、大切にしていきたいと思っている。

: さきほど、岩手医科大学の小笠原さんが発言した人口の問題だが、本当に危機感を持って考えている。私の住む本町通り1丁目では600世帯住んでおり、その中で、小学生が30数人しかいないという状態である。そのように非常に高齢化が進み、また、今は高齢人口が多いが、今後は高齢者すら減っていく時代に突入するだろうと思う。その中で、このプランの中に防災という観点が一つあったが、もう一つ、医療・介護ということも大切な要素としてある。内丸メディカルセンターが今あるがこの後がどうなっていくのか。是非、中心市街地の中にも医療・介護も充実したものをつくっていかないと、将来のまちの暮らしが成り立っていない状況になると思う。喫緊の問題として非常に心配している。私は本町で70年ずっと住んでおり、無くなった医療機関は、赤十字病院が無くなり、中央病院も上田に移転し無くなった。岩手医科大学さんも矢巾に移転し、しかし内丸メディカルセンターが残ったおかげでなんとか、と思ったりしているが、本当に、中心市街地から医療機関の拠点が無くなっていくのは町にとっては大きな出来事だろうと思っている。

: 最後に、実は、先ほど若い人にパブリックコメントをという話があり、はっとしたが、わが本町内丸子ども会メンバーで岩手医科大学が無くなった時に、その跡地をどうするかということで、岩手医科大学跡地はこうあるべきだろう、という、夏休みの自由研究を行った小学校4年生の女の子がいた。今は中学生になっている。子どもさんというのは、そのような、自分のまちの将来ということについて、とて

も敏感だと感じた。私は、その自由研究を、今でも大事に、宝物のようにしているが、そういう若い人の意見をぜひ、という先ほどの御意見はその通りと思う。よろしくお願いします。

都市整備部長 : 「盛岡らしさ」はこの取り組みの中では本当に長い時間をかけて考え、色々な人に聞いてきた。盛岡らしさは一言で言えない、一つに絞れないのが盛岡らしさという人もいた。内丸地区にはそういうものがたくさん集まっているので、そこに関わっていく人が増えていかなければとは思っている。この地区にいろいろな方々が訪れるような空間づくりをしていったらどうか、というのがこの内丸プランの提案の1つである。

: 介護・医療のお話については、内丸地区に限らない話である。盛岡市では立地適正化計画を策定しており、都市の機能をしっかりと配置し人口を張り付けていくという考え方である。行政機関を始め、商業施設、医療、子育てなどの機能をしっかり残していくことが都市機能を維持していくことだという全国的な考え方だが、それを誘導する施策を展開していきたい。

: お子さんの意見というのは本当にそのとおりであるが、その方法については、考えが及ばないところもあるので、是非ご提案をいただければ非常に嬉しい。現在、別に中心市街地デザイン戦略の取り組みをしており、そこでもお子さんに意見を貰える仕組み作っているので、御意見を伺いながら次代を担う若い方の意見をまとめていく努力をして参りたい。

岩手大学（座長） : 商店主の人たちの役割というのは、まちづくりにおいても大きい。まちを繋ぐ、まちの人たちを繋げる役割を誰がやっているのかというと、行政の人たちもですが、商店主の人たちの役割が大きい。東日本大震災の時もそうだが、能登の復興でも、祭りなどまちのイベントを起こしていくのは、商店主の人たち。地域の結束を固め、何とかこれから乗り越えていくんだという、人の心を繋ぐことをやられている。立地適正化計画は全国展開されている都市計画の最新版のツールだが、この内丸プランは、もっと、この土地をどうするかという、立地適正化計画を超えたものを創っていかなければならない、ということと思う。

岩手医科大学 : 内丸メディカルセンター閉鎖後に旧循環器センターで総合診療をやるので、どんな人が来てもちゃんと診るということになる。内丸メディカルセンターが無くなると皆さん思っているが、旧循環器センターで総合診療をやるので、誰にでも来て貰える。再来の患者さんも特別な特殊な治療をしなければ、通院は可能になる。例えば血圧の薬を貰うなど。私が現在診ている患者さんもそこに移す予定である。なので、今盛岡の中心部で病院にかかっている方々は、特殊な治療や検査が要らなければ全部総合診療科で診ることになっているので、盛岡市民にぜひ伝えてほしい。無くなると思っているが無くならない。総合診療の医師がちゃんと残る。もう一つ介護だが、訪問診療を行う計画を立てている。歯科があるので、歯科と医科と一緒にいくなど考えて計画をしている。それがおそらく、盛岡の人たちに対する、あそこに岩手医大が130年近くあったので、それに対するお礼。また、私たちは本町通り商店街にとってもお世話になった。あそこにいる約3000人の職員が毎日

商工会議所

- 出前を取り、もしあそこに商店が無かったら我々は飢え死にしていたというくらい、私も何回も出前を取って昼飯を食べた。おそらく、かなりの職員が商店街にお願いをしているので、内丸から引き上げることが、とても我々にとっては申し訳ないという気持ちを持っているのを分かっていたきたいと思う。しつこいのですが、内丸メディカルセンターは総合診療が残るので、そこに来ていただければそんなに不便はないのではないか、と皆さんに報告する。よろしくお願いいたします。
- : 初めて出席するが、一通り読み、意見と言うか感想を7点ほど述べたい。初めてなので、的外れなところもあろうかと思うので、参考になるところがあれば、お聞き届けください。
- : 1 ページの下から2段落目「盛岡市の再興を目指して」また、「地域経済の地盤沈下という将来予測」という言葉が、再興というところかなり落ち込んだものの再興というイメージがあり、「地域経済の地盤沈下という将来予測」についてはデータがあるのか。あれば示してほしい。表現として良いのか教えてほしい。
- : 4 ページの、「内丸プランの位置付け」における関係計画について、内丸を社会経済を牽引するまち、となるよう進めていくには、交通なども大事だが、商業関係、盛岡市商業振興ビジョンなど商業関係の計画との連携も大事と考える。記載されなくても当然連携するということかもしれないが、それについても配慮があると良いと思う。
- : 6 ページの、「魅力へのアクセス」について、盛岡駅・盛岡バスセンター等の結節点間の移動確保は大事である。一方で、プラン自体ではないが、プランを検討している間にも現実には、路線バスは減便となりタクシーも減っているなど動いているので、プランの検討と同時並行して現実的な対策についても、盛岡市としてよろしくお願いいたします。
- : 9 ページ「あるべき姿」の、「城下の風格と都心空間が調和するまち内丸」をはじめとして「歴史」が出てくるが、盛岡というと歴史に加えて文化も良さであると思う。NYタイムスでも取り上げられていたと思うので、例えば、「歴史・文化」とするなど、何か所も「歴史」が出てくるのでそういう伝え方も良いかと思う。例えば「中央通は文化の面でも」骨格道路というご説明もあるし、実際に内丸は歴史文化館、啄木賢治青春館、県民会館など文化施設の集積もあるので、そういった文化施設の集積や、官庁ビジネス街との人流など、また休日の人流対策も考えられると思うので、文化についても加えると良いと思う。
- : 27ページや32ページに「さんさ踊り」という言葉が出てくるが、中央通りで行われるのは「盛岡さんさ踊り」なので、「盛岡さんさ踊り」と表現は整理して頂くと良い。
- : 37ページ以降の、ハード・ソフトの取組について、整備の方向性を示すための例ということだが、実際に進めるにはそれぞれが地域や商店街の活性化に実際に繋がることが大事と思うので、しっかりした調査や検証が必要と思う。例示であってもプランに載るとかなりの影響があると思う。
- : 55ページ「公共交通と結節点」で内丸地区と鉄道・空港とのアクセスということが

ある。来盛者の内丸官庁街へのアクセス需要があるので、よろしくお願いします。

: 1 ページの最後に、「市民等が期待を抱くことのできる内丸プラン（内丸地区再整備基本計画）を作成します。」とありその通りだと思うが、要は内丸が何を指すか、どういった集積を目指しどういう人に発信していくかが大事と思う。官公庁・ビジネスの中心として、ビジネスとか行政を牽引するまちを目指すということであれば、県外から見ても働く魅力のある内丸とすることを目指し、県内外に情報発信をするということも一法ではないかと思う。このプランが、より一層、官庁とかビジネスの中心になるよう、それから医療もということであればそれも盛り込み、50年後の将来というプランなので、ある程度50年後の将来を予測なり見越し、今考えられるITとかAI、温暖化対策なども踏まえ、50年後の内丸について市民等が期待を抱くだけでなく、県外からも関心を持ち、こういうところにうちの企業も集積したい、というところまで目指すことも一法と思う。

都市整備部長 : 頂いた御意見は十分に検討する。

岩手大学（座長） : 1 ページ「はじめに」の、「岩手医科大学の矢巾町への移転等による都市機能の離散」というのは、「離散」ではなく「分散」かもしれない。先程、小笠原先生から（内丸に診療機能が）残るという話もいただいております、「離散」ではいなくなる印象になるので、検討ください。

盛岡財務事務所 : パブリックコメントをやった後の、このプランの策定スケジュールは。

岩手大学（座長） : この後に説明があります。

東北電力 : 今後の整備方針で検討することかと思うが、全体の街区でオープンスペースを多くとって建物を配置すると、個々の建物が高くなると思うが、建物の高さに関する考えは、基本方針で議論するのか、次の整備方針で個々の街区ごとに整備されていくのか、教えてほしい。

都市整備部長 : 当初は、整備方針編にかかる部分も一緒に作ろうと思っていたので、建物の建て方、建物高さ及び道路からの空間の取り方、また景観に配慮した意匠など、ルールの一つ手前の考え方まで作ろうと取り組んできたが、冒頭にお話ししたとおり、各機関の更新に関する考え方がまだ確立されていないところであり、そのような事項については、整備方針編の中で取り組むことになると思う。整備方針編の検討においては、基本方針編にもフィードバックしながら、ルール化できれば良い。今の段階では高さに関する具体的な定めは設けていない。

岩手大学（座長） : 一つの都市計画のプランを作ろうとするときに、あまり急ぎすぎると皆さんの合意が進まないということになり、引き過ぎても将来の姿が見えてこないということになり難しいところがある。皆さんで少しずつ将来の姿を共有し、ここは一致できるのではないかという大枠から決めていくのが都市計画の常套といえる。皆さんと一致できるところから進め、だんだん将来の姿が見えてくると、もっと可能性が見えてくる。皆さんにとってのプラスを生み出せる可能性が出てくる。そこまで、やがて行けば、間もなく行けば、ということかと思う。

●その他

(1)の項目について、資料3により都市整備部長が説明。

以上